

美術やものづくり体験への参加や共有を通して社会との繋がりづくり

特定非営利活動法人 岡山高等学院

活動の目的

学校生活や、社会生活のなかで孤立感をもつ子ども、若者が、年齢や立場の関係なく美術体験を共有することで、自分を受け入れてくれる居場所を確保することができる。また、いきなり人と話すのがむずかしいと感じる当事者が、作品を通して、他者に自分自身を開示するきっかけとなる。

「つながる美術体験活動」として「合同作品製作会」を年間を通して、月1回の頻度で開催する。会場は、岡山市、倉敷市を中心に県内各地で開催することで、参加者の活動範囲を広げるとともに、県北の雪景色や、県南の海辺、吉備路や後樂園など、岡山県内各地を知るきっかけになる。各開催時に参加者の交流を図る。

活動の内容及び経過

- 5月 岡山城 岡山城の写生
- 6月 吉備津神社 紫陽花園での写生
- 8月 個別での美術体験
- 9月 前島 染色体験 美作の檜の皮で布を染色
- 10月 美作 染色体験 美作の檜の皮で布を染色
- 11月 池田動物園 動物の写生
- 12月 渋川水族館 海の生き物の写生
- 1月 展覧会、体験発表会 倉敷市倉敷公民館
- 2月 作品集発行 52p200部

活動の成果・効果

6日間の展覧会には100名以上が来場し、うち70名から感想をもらった。参加者自身も準備、受付に参加し、来場者に作品の説明をする場面も見られた。

体験発表会では、7名が自身の体験を発表した。

「つながる美術体験作品集2019」を発行し、参加21名それぞれの絵画作品と4点の染色作品、その他展覧会での感想や、作業風景の写真を掲載した。

うち、11名分の

- ①美術体験を振りかえって
- ②美術作品展・発表会を振りかえって
- ③美術でたのしかったこと、これからやってみたいことを記載。作品集にまとめる作業のなかで、参加者の新たな気持ちを知ることができた。

活動参加者自身の、絵を描くことへの積極性のもとより、その日、絵を描いたり、布を染めるために集まり、さまざまな人と一緒に活動に参加することや、他の参加者が自身の作品を見ること、他の参加者の作品を自身が見ることを通して、コミュニケーションや連帯感が生じ、それぞれの参加者の自信に繋がっている。



この事業は、3カ年継続助成を申請しているものだが、今回発行した作品集をみて、翌年の事業への意欲をもった参加者が現れた。

今後の課題と問題点

今年度の活動をみて、次年度以降の参加に意欲をもつ対象者が何人かいる。

このつながる美術体験を、今後どうやって定着させ、続けていくかが課題である。

「俺は、私は、絵が下手だから、どうせうまくできない。」
「小さいころに下手って言われて、それから描いてない。」
という、参加者が一定数いたことが印象深い。

絵を描くことを楽しむ前に、絵の上手、下手を勝手に評価され、絵を描くことへの心理的なハードルが高くなってしまっている。

そのハードルを小学生のころから、子どもたちは感じているようである。

そういった参加者が、一年を通して、自分なりに納得のいく絵を描き、展覧会で絵を飾り、嬉しそうにしている様子をみていると、「自分が描いてみたい絵」を「描ける」環境を設けることの必要性を感じる。

- 代表者：木村浩輔 ●所在地：岡山市北区野田屋町
- TEL：086-221-3350 ●E-MAIL：o.h.gakuin@gmail.com
- URL：http://o-h-gakuin.info/
- 設立年：2017年 ●メンバー数：18名